森の生活

2019年度
年次報告書

森の生活のミッション

森林を活かし、
人々の心豊かなくらしと
持続可能な地域づくりに貢献する。

私たちはみんな「森の生活」を送っています。

森に囲まれた暮らしだけが森の生活ではありません。
日々の暮らしの中にある森から生まれたものについて想いを馳せてみると、私たちの暮らしが思いのほか森とつながっていることに気づきます。しかし、直接森にかかわったり、森のことを考えたりする機会は少ないのではないでしょうか。

日本は森林率67%と世界でも有数の森の国です。しかし、木材の多くを海外からの輸入に頼る一方、国内では森林が十分に活かされていない状況にあります。驚くことに、森が身近にある農山村においてさえ、多くの人々にとって、森は近いようで遠い存在です。かつて日本で行われていた暮らしの中に森を活かす文化を、今、新しい形で蘇らせられないでしょうか。

身近な森から生まれた製品を購入したり、休日を森で過ごしたり、森に関わる仕事に携わったり。そんな機会を創造していくことで、農山村、都市の隔てなく広がる人の数だけある「森の生活」が、森を育て、そして一人一人の暮らしや人生をもっと心豊かにするはずです。

ＮＰＯ法人森の生活は、森のある暮らしを広める活動を通じて、人々と自然が調和した豊かな社会づくりに取り組みます。

目　次

Ｐ１　森の生活のミッション
Ｐ２　2019年度活動ハイライト
Ｐ３　活動報告
　Ｐ３　森の体験事業
　Ｐ９　森のまちづくり事業
　Ｐ12　森のめぐみを届ける事業
P13　森の生活の活動のSDGsへの寄与
P15　会計報告　エネルギー消費量
P16　中期３カ年ビジョン
P17　団体概要　森の生活年表
P18　理事・スタッフ紹介

2019年度 活動ハイライト

子どもから大人まで、森で遊び、学ぶ機会を提供します。

- 森林環境教育を、延べ1,294人の子どもたちに43プログラムを提供しました。
- 森林体験プログラムを15件提供し、延べ99人の方々にご参加いただきました。
- 研修プログラムを23件提供し、延べ680人の方々にご参加いただきました。
- 指定管理者として管理運営を行う「森のなかヨックル」を、1,545人の 方々にご利用いただきました。

住む人、訪れる人、どちらにとっても魅力ある、森を活かした地域づくりに取り組みます。

- 指定管理者として管理運営を行う森林「美桑が丘」を延べ3,186人の方々にご利用いただきました。
- ローカルベンチャーの推進に取り組み、全9回のローカルベンチャーラボを実施し、2人の移住・起業者を生み出しました。

下川の森から生まれた体験・製品・物語を届けます。

- 地域内で有効利用されていなかった広葉樹丸太59.3m³を購入し、製材・乾燥したほか、木工用材や加工製品延べ39件の販売を行いました。
- 自社ホームページおよびふるさと納税に、しもかわ広葉樹のオーダーメイドテーブルを掲載しました。

活動報告

森林環境教育事業

延べ 1,294 人の子どもたちに 43 プログラムを提供しました。

森の生活では、下川町からの委託を受け、認定こども園「こどものもり」から高校まで成長段階に合わせて目標を設定し、15年一貫の森林環境教育に取り組んでいます。認定こども園「こどものもり」ではほぼ月に1回、小学生から高校生までは年に1回、プログラムを実施しています。

森林環境教育の取り組みの経緯

2006年、NPO法人森の生活が下川町幼児センター（現・認定こども園「こどものもり」）の子どもたちを対象に森のあそびを実施したことからスタートしました。2007年には、下川町役場が町内の小・中・高校に対し森林体験プログラムを実施するようになり、2009年からは成長過程に合わせた体系的なプログラムを実施するために、幼児から高校まで一貫した森林環境教育として取り組むようになりました。2011年には、森林環境教育プログラム「LEAF」※を導入。2019年、下川町では、「2030年のありたい姿」の7番目の目標「子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち」を具体化するための「地域共育ビジョン」を作成しました。森林環境教育も、地域共育ビジョンと、2020年から順次始まる新学習指導要領に対応すべく、内容の見直しを進めています。

※LEAF は北欧発祥の森林環境教育プログラムで、現在 21 カ国で取り組まれ、日本では NPO 法人 FEE Japan が活動を推進しています。人間が持続可能な生活を送る上で森林が重要な役割を担っていることを子どもたちに知ってもらい、学んでもらうことをビジョンに掲げています。
プログラムは、活動を中心とした参加型で、森林の文化的、生態学的、経済的、社会的な役割を考えさせるもので、“Clever Question, Good Decision” を大切にしています。

LEARNING ABOUT FORESTS

下川町の森林環境教育の目標

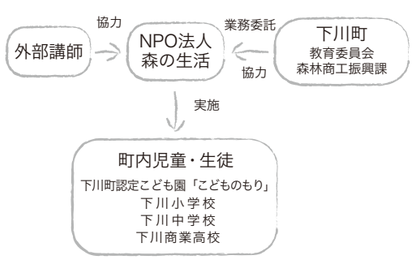
・身近な自然における学びや楽しみを通じて人間的な成長を育む。
・地域の資源である森林を活かす仕事について理解を深める。
・森林の役割や地域の取り組みについて考え、持続可能な社会に向けて自ら行動できる人を育む。

プログラムの評価・改善

プログラム提供後に先生方へのアンケートを実施し、定量的な評価を行うとともに、年２回の関係者会議（教育機関、教育委員会、役場）を通してプログラムの改善に向けた情報共有、意見交換を行っています。

設問 ＊５段階評価で、１が低い評価、５が高い評価。	平均値	
	2018 (N=19)	2019 (N=22)
A. 活動の目標が事前に共有できていましたか。	4.2	4.3
B. 活動の目標が達成できましたか。	4.2	4.5
C. 子どもたちにとって興味を持って取り組める内容でしたか。	4.2	4.5
D. 子どもたち自身の気づきや学びを尊重した内容でしたか。	4.1	4.0
E. 森の生活との連携の意義を感じる内容でしたか。	4.3	4.5
F. 準備や実施は負担に感じませんでしたか。（＊負担に感じなかったが 5）	4.3	4.5
G. 安全に活動できましたか。	4.7	4.9
H. 学校で学習している関連単元の理解を深めることに役立ちましたか。	4.4	4.0

実施体制



2019年度実施プログラム

LEAFの
6つのSTEP

STEP 1
野外で
楽しく遊ぶ

下川町認定こども園「こどものもり」森のあそび

4月　白樺樹液の採取
5月　下川町植樹祭、親子遠足
7月　夏のさんぽ
9月　白樺のしおりづくり
10月　焼き芋、秋のさんぽ
11月　冬のさんぽ
1月　雪山でしりすべり
2月　雪山でしりすべり、修了式（スライドショー）

STEP2
自然を体感
して気づく

STEP3
環境のしくみ
を理解する

STEP4
人間と自然の
相互作用を
理解する

STEP5
環境問題に
自分なりの判断
を下す

下川小学校　森林学習

1年生　お気に入りの木を見つけよう
身近な自然を体感することで、木の特徴や種類に興味・関心を持ち、地域の自然に対する愛着を育む。

２年生　動物のお弁当箱を作ろう
お弁当づくりを通して森に様々なものがあることを知り、森林への興味・関心を高める。

３年生　森林の生き物を探そう
虫や動物、きのこ、樹木などの生態を知り、「いきものマップ」を作ることで森林の循環のしくみについて理解を深める。

４年生　森づくりについて学ぼう
植樹祭を通して木を植え、育てる活動への興味・関心を高め、下川町の循環型森林経営について理解する。

５年生　木材の活用法について学ぼう
木の伐採現場や林産業の工場・施設の見学を通して、森林の育成や活用に携わる人々の取組について興味・関心を高め、人間と自然の相互作用について理解する。

６年生　木材製品と生活について考えよう
樹種や木材を詳しく知り、マイ箸づくりを通して木材製品への関心を高め、自分の生活の中でできる選択について考える。

下川中学校

1年生　炭焼き学習　オリエンテーション・ふりかえり
炭焼き体験を通して環境未来都市・下川町の自然と自分たちとの関係性を認識し、そのつながり意識して行動できるようになるとともに、炭焼きの歴史や方法について理解し、発表・共有する力を養う。

2年生　職場体験
職場体験で木工作家さんや牧場などのお仕事を１日体験しました。
終了後は班ごとに体験したことをパワーポイントを使ってまとめ、参観日で発表しました。

3年生　郷土学習　下川の移住者・地元の人の講話から、我らが担う下川町の未来について考えよう！
下川に移住した人や地元の人のお話しを聞き、質問などを通し、「下川の未来」について考えました。参観日で自分の考えを発表しました。

STEP6
未来に対して
責任を持つ

下川商業高校

1年生　森林の経済的価値と下川町の森の仕事

森林の経済的価値について理解を深め、森林や林業に関わる仕事について考える。

２年生　下川でビジネスを考えよう！

地域の人や資源を知って、下川町の経済活動について考える。

３年生　商品販売

２年次に製作した商品の販売を通して森林の経済的価値及び循環型森林経営の理解を深める。

プログラム例：小学５年生「木材の活用法について学ぼう」

単元の目標：森林調査や伐採体験、間伐材が活用される工場や施設の見学を通して、森林の育成や活用に携わる人々の取組について興味・関心を高め、人間と自然の相互作用について理解する。

9/11　事前学習　＜教室＞

世界・日本・下川の森林や身の回りの木からできたものについて知り、見学先での質問を考える。

9/12　現地学習

＜渓和森林公園＞
木の伐採現場を見学、働いている人に話を聞く。

＜三津橋農産＞
丸太から製材に加工する現場を見学、
働いている人に話を聞く。

＜下川フォレストファミリー＞
製材品から木工製品に加工する現場を見学、
働いている人に話を聞く。

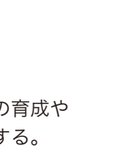
＜小学校前 木質バイオマスボイラー施設＞
チップが燃やされ、エネルギーになる様子を見学、
教室のヒーターとのつながりを知る。

9/17　事後学習　＜教室＞

・現地学習のふりかえり
・森林新聞づくり
　※小５社会『わたしたちの生活と森林』の単元と関連させて学習

担当スタッフより

子どもたちにはプログラムを通して、身近な自然を感じたり下川町の取組を学んだりして「下川の豊かさ」を実感してほしいと思います。
そのために、まず子どもたちが楽しみながら学びを深められるようなプログラムや、SDGsや関連する他の教科なども絡めながら、森林に関する知識や体験を増やしていけるようなプログラムを先生方と相談しながら作り、提供していきます。



長尾 綾

活動報告

森林体験事業

森林体験プログラム

延べ 99 人の方々に 15 件のプログラムを提供しました。

下川を訪れる方々に気軽に森や自然と接する機会を提供し、森のある暮らしを体験するお手伝いをしています。

季節の森歩き
季節ごとに魅力たっぷりの下川の森をゆったり散策します。

森の精油づくり
森でトドマツの枝葉を採り、エッセンシャルオイルを作ります。

ムーンウォーク
満月の夜の森をスノーシューで歩きます。

研修プログラム

延べ 680 人の方々に 23 件のプログラムを提供しました。

自治体・企業・大学などの他団体と連携し、目的に合わせてじっくりと森で学ぶ機会を提供しています。

東京海上日動火災保険 新入社員研修

全国11地域で行われた社員研修のうち、下川での森林体験をコーディネートしました。

御嵩町環境都市交流体験プロジェクト

岐阜県御嵩町の中学生6名を対象に、下川町の森林産業について学ぶプログラムを実施しました。

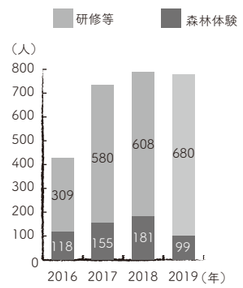
子ども交流事業

下川の小学５・6年生を対象に、横浜市戸塚区の子どもたちとの交流体験をコーディネートしました。

名寄市立大学社会保育学科 自然保育実践演習

保育士の卵である名寄市立大学社会保育学科の学生たちが自然保育の実践フィールドとして美桑が丘を利用し、火起こしやレクリエーション、キャンプなどを行いました。

参加者数の推移



2019年度は、社会人の学びや企業のための視察・研修のご依頼を多数いただきました。また、高校での修学旅行のお問い合わせも増えており、地域を学びの場として捉えてくださる方が増えていることを感じています。プログラムの提供を通じて、下川とより良いご縁を多くの方と紡げるようにしていきたいと思います。

担当スタッフより

麻生　翼

森の体験事業

活動報告

地域間交流施設「森のなかヨックル」管理運営事業

1,545 人の方々にご利用いただきました。

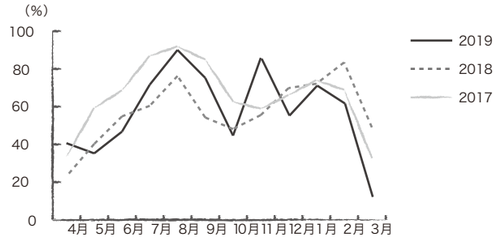
指定管理者として、地域間交流施設「森のなかヨックル」の管理運営を行っています。

下川町地域間交流施設「森のなかヨックル」は、恵まれた自然環境を背景に、各種体験活動の場を提供し、都市住民と町民との交流を促進、地域の活性化を図ることを目的として、2006年に下川町によって設置されました。2009年4月1日からは、NPO法人森の生活が指定管理者としてヨックルの管理運営を行っており、森の生活が従来から行っていた都市向けの森林体験交流事業をより発展させ、宿泊とあわせて多様なプログラムを提供し、森林のまち下川町の交流拠点となることを目指しています。指定管理料はなく、主に利用料収入で運営しています。

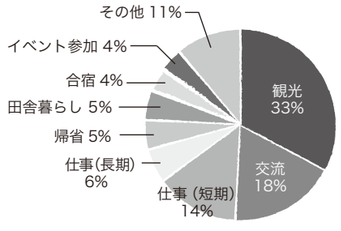
自炊可能なコテージ型の交流施設で、A棟１棟（10名定員）、B棟10棟（４名定員）の合計11棟からなります。市街地にも近く、自炊設備も整っているので、下川に暮らしているような気分で滞在できる施設となるよう管理運営を行っています。

お客様の利用目的は観光・交流・仕事・帰省・合宿・イベント参加など多岐に渡っています。どのような目的で宿泊された方にも地域の魅力を伝えることが、地域間交流施設としての役割であり、持続可能な地域づくりにつながります。年々、お客様と地域の人とのつながりや、お客様同士の交流が増えてきています。2019年度も地域とのつながりや交流の場となるような取り組みを実施しました。

2017～2019 年度 稼働率



滞在目的



無人野菜販売所の実施

昨年度試験的に実施した、地域の方が無農薬で作った作物を販売する「ヨックル無人野菜販売所」が好評だったので、2019年度は収穫シーズン期間中の販売を実施し、地域の方やヨックルのお客様にご利用いただきました。
地元産の安心な野菜を買える場と、地域の方とヨックルのお客様との交流の場を提供することができました。

ヨックルガーデン整備

ヨックルガーデンはヨックルに併設された畑で、お客様にご利用いただいています。どんなお客様にも安心してご利用いただけるよう、農薬や化学肥料を使わずに作物を育て、日々管理しています。ガーデンを楽しみにされているお客様も多く、滞在中は畑作業や収穫を楽しんでいただいています。お客様と地域の方との交流の場にもなっており、ヨックル滞在の魅力にもなっています。

2019年度は、お客様や地域のみなさまに喜んでいただけるような居心地が良く使いやすいガーデン、かつスタッフが管理しやすく作物が育てやすいガーデンを目指して整備をしました。レイアウトの変更や通路の整備、ハンモックの設置、ハーブや花を増やすなどの整備をし、通路に敷いたウッドチップや、パーゴラに設置したハンモックはお客様にもとても好評でした。お客様に親しみを持っていただき、SNSなどで発信していただけるような魅力的なガーデンとなるよう、今後も整備を実施していきます。

ヨックルガーデン収穫祭

毎年恒例のヨックルガーデン収穫祭は、これまではヨックルのお客様と、ヨックルガーデンの管理を一緒にやっているガーデンサークルメンバーにのみ参加を呼びかけていたのを、興味のある方に幅広く参加していただけるように一般の方にも広報したところ、新たな参加者もあり新しい地域間交流を生み出すことができました。

2019年度もたくさんの方にヨックルをご利用いただきました。
私よりもヨックル歴の長い常連のお客様に初めてインタビューをお願いしたところ、ヨックルに初めて来た時のこと、リピーターとなって毎年来てくださる理由などをお話ししていただきました。スタッフがきちんと施設を管理していること、ヨックルガーデンで畑の体験や野菜の収穫ができること、地域の人と交流ができること、豊かな自然環境があることなどが毎年来てくださる理由だとのことでした。
これからもまた来たいと思っていただけるように、ヨックルが魅力な施設であるように管理運営をしていきたいと思います。

担当スタッフより

成田 菜穂子

森のまちづくり事業

活動報告

美桑が丘管理運営事業

延べ 3,186 人の方々にご利用いただきました。

指定管理者として、美桑が丘の管理運営を行っています。

美桑が丘は、「各種体験学習、ふれあいや環境関連資料等の展示・催しを通じ、森林文化の創造を図る」という目的のもと、下川町によって設置されました。2012年度からは森の生活が指定管理者となり、下川町中心部近くにある放置されていた雑木林を「美桑が丘」として人々が集うことのできるフィールドに整備するところから活動を始めました。
美桑が丘の森は野外活動やイベントのフィールドとして、管理棟は屋内活動やミーティングのスペースとして利用することができます。

美桑が丘における市民活動の経緯

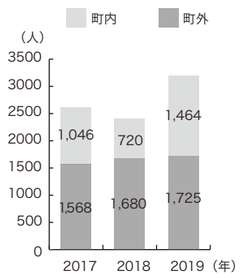
2010年度、下川町が美桑が丘の用地を取得。2012年度、森の生活が指定管理者に決定。2013年度には、森の生活主催で毎月一度、誰もが美桑が丘で自由に過ごすことのできるイベント「みくわの日」をスタート。地域の人々と協働で美桑が丘の場づくりについて考える話し合いも実施しました。
その後、徐々に利用者が増え、美桑が丘でより活動がしやすくなるしくみ「みくわクラブ」が生まれました。また、地域の人々との話し合いは、試行錯誤を経て、年2回の「みくわミーティング」となり、初めは森の生活が主催していた「みくわの日」も市民グループと一緒に運営するようになりました。

2019年度は、助成金※を活用しながら、ツリーテラス製作、森の道づくり、グリーンウッドワーク、雪板づくりなどを行いました。

※ 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金助成金

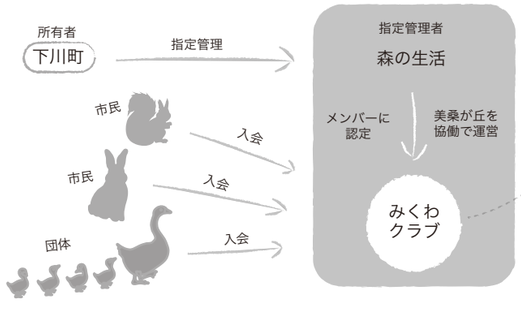
みくわミーティング

利用者数の推移



みくわクラブ

継続して美桑が丘の場づくりに関わりたい利用者が、より活動しやすくなるしくみです。
「森の生活の構成員となり、責任を持って施設利用を行うこと」を条件に指定管理者の構成メンバーとして主体的に活動をしやすくなる様々な特典を受けることができます。



入会の条件

- 美桑が丘の設置目的を理解し、継続して美桑が丘を利用すること。
- 入会することで森の生活の構成員(ボランティアスタッフ)となり、責任を持って施設利用を行うこと。
- 年会費として【個人500円】、【団体1500円】を支払うこと。
- メーリングリストに加入すること。
- 営利目的の場合は、その他必要な実費を支払うこと。

特典の例

1. 安全への配慮のもと、焚き火場を利用できる
2. 活動中にケガや事故が発生した際、内容によって保険が適用される
3. 活動で必要な場合は森の生活の道具の一部を利用できる　など

2019 年度の主な活動

※（）内は活動の運営団体

ツリーテラス＆森の道づくり（森の生活）

講師を招いて利用者と一緒にツリーテラスづくり、森の道づくり、美桑が丘で使う椅子づくりのワークショップを開催しました。

ワークショップの開催（森の生活）

森の楽しみ方が身近になるようなワークショップとして、グリーンウッドワークや雪板づくりを開催しました。

みくわの日（森の生活＆みくわの日グループ）

月に1回、誰でも美桑が丘で自由に過ごせる場を地域の方々とともにつくっています。

森ジャム（森ジャム実行委員会）

2019 年で 6 度目となる町民主催のイベント。毎年 7 月美桑が丘を会場に開催され、町内外から多くの参加者が来場しています。

1 年間の活動ポスターの製作（森の生活＆みくわクラブ）

美桑が丘の 1 年間の活動の様子をまとめた掲示物を、利用者と一緒に作成しました。町内の施設などに展示し、美桑が丘の活動を知ってもらう機会を作っていきます。

森のようちえん活動（森のようちえん カカラ）

町民有志の森のようちえん活動のフィールドとして毎週定期的に利用。多くの利用がありました。

小さな里山づくり・道産子馬の放牧（22 世紀コミュニティ研究会）

美桑が丘の一部で、里山暮らしを実践し、メンバーが飼育している道産子馬ハナちゃんの放牧もしました。

担当スタッフより

2019年度は、地球環境基金の助成金を活用して、ツリーテラスづくりや森を親しむためのワークショップを実施することができました。ツリーテラスができたことで「みくわの日」に来た子どもたちがこれまでよりも森に入るようになったり、森の恵みを活用したものづくりワークショップで森を身近に感じてもらえるようになったりと各活動は好評でした。森とのつながりを暮らしの中で継続していってもらえるように今後も活動していきたいと思います。

成田 菜穂子

森のまちづくり事業

活動報告

協働推進事業

地方の資源を活用し、新たな価値を生み出す事業を創造する「ローカルベンチャー」の推進に取り組み、2 名が起業のため移住しました。

下川町産業活性化支援機構、NPO 法人 ETIC. と連携し、下川での起業家誘致と起業支援に取り組んでいます。

しもかわベアーズ

下川で自分の得意なことや好きなことを活かして起業する人を誘致・支援するプログラム「しもかわベアーズ」の、4 期目となる募集を行いました（下川町産業活性化支援機構と連携して実施）。
SDGs を踏まえて策定された「2030 年における下川町のありたい姿」の 7 つの目標のいずれかに共感し、目標達成につながることに取り組むというコンセプトで実施。審査会等を経て、2 名を採択しました。

2019年11月6日に東京で開催した関連イベント「時代の最先端はローカルにあり！『トランジション・タウン』への挑戦」の様子。環境ジャーナリストで下川町SDGsアドバイザーでもある枝廣淳子氏をゲストに迎え、これからの時代のローカルの可能性について光を当てました。

プログラムへの参加を通じて下川に移住した塚本さん

塚本あずさ さん

東京でリラクゼーションサロンに勤めておりました。独立を考えていた時に、「シモカワベアーズ」を知り、思い切って応募したことがきっかけで移住しました。
現在は、町の方々にもご協力いただきリラクゼーションサロン店舗をベアーズ 2 期生の山口駿人さん主導の下 DIY で作っています。
アロマセラピーと漢方を生活の中に気軽に取り入れて、病気にかかりにくい身体作りやセルフケアを広めていきたいと思っています。

ローカルベンチャーラボ

主に首都圏の方を対象としたローカルでの事業構想を練るプログラム、ローカルベンチャーラボの「土着型 SDGs ビジネス」のテーマラボを担当し、全 9 回のゼミを実施しました。

担当スタッフより

麻生 翼

少し前まで、ローカルは一部分の興味のある人たちだけが関わるテーマだったように思いますが、最近では、今の日本や世界の抱えている課題を生み出している社会経済システムを乗り越える足がかりとして、より多くの人たちの関心がローカルに向き始めたように感じています。地に足をつけて、地域の何を守り、何を変革し、どう移行させていくのか、ということを考える時期にきているように感じています。

森のめぐみを届ける事業

活動報告

森の製品開発事業

地域内で有効利用されていなかった広葉樹丸太 59.3m3 を購入し、製材・乾燥したほか、木工用材や加工製品延べ 39 件の販売を行いました。

有効活用されていない広葉樹を、少量・多品目の木材流通システムを構築することで、町内外の作り手の方々に顔の見える木材として供給しています。

少量・多品目の顔の見える木材流通システム

国産広葉樹材の約 8 割がチップにされており、木工用の材料として使われている広葉樹も、その多くを外国産材に頼っています。
広葉樹はうまく活用すれば針葉樹よりも付加価値がつきやすく、その蓄積量は 1990 年以降回復傾向にあるものの、多くがチップにされています。この背景には、広葉樹は計画的な管理が難しいうえに、出材量が少ないため、原木車による運送コストに見合うだけの量を確保することが難しいという理由があります。

そこで、私たちは、有効活用されていなかった地域の広葉樹を木工用材として活用するために、下図のように、小規模多樹種の木材流通の仕組みを構築しました。現在では、ミズナラ、タモ、イタヤ、センといったポピュラーな樹種だけでなく、シラカバ、ハンといったあまり一般的に流通しない木材まで取り扱っています。

自社ホームページおよびふるさと納税に、しもかわ広葉樹のオーダーメイドテーブルを掲載しました。

下川産広葉樹「しもかわ広葉樹」を使ったオーダーメイド天板とテーブルの販売を自社サイトでスタートさせました。また、下川町ふるさと納税の返礼品としても掲載を開始し、好評をいただきました。

昨年度１年間、木材事業に携わらせていただきました。
移住前は１日中パソコンに向かって仕事をしていたので、様々な意味で大きな変化の連続でした。初めて木材倉庫に足を踏み入れた時、まったく新しい世界へのワクワク感とともに、未経験の自分がやっていけるのかという不安も感じたことを覚えています。
私は森も木も大好きなのですが樹種に意識を向けたことはほとんどなく、また学術的な知識もないので、「木材の樹種を判断する」というのが最初の大きなハードルでした。まず樹種名を覚えるのに一苦労、さらに木材は製材したままの状態なので表面的な見た目だけでは素人には判断がつきません。
木材とのつながりを持てず、もどかしい思いで数ヶ月が経ったある日、ふと「あぁこれは○○（樹種名）だ」と何となくわかった瞬間がありました。すると、それまで「木材」として見えていたものが「（森の中で命を育んでいた）生命体」として感じられるようになりました。
木目はその樹が生きてきた足跡だと思うと俄然好奇心が掻き立てられます。樹木との新しいつながりを与えてくれた、木材事業に携わらせていただいたことに感謝しています。

担当スタッフより

菅家 久里子

森の生活の活動の SDGs への寄与

SDGs（Sustainable Development Goals［持続可能な開発目標］）は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。下川町ではSDGsを踏まえた「2030年のありたい姿」を策定し、総合計画への反映に取り組むなど、自治体としてもSDGsの達成の寄与に取り組んでいます。

森の生活としては、「森林を活かし、人々の心豊かなくらしと持続可能な地域づくりに貢献する」というミッションのもと、本報告書で報告させていただいた事業の成果をもってSDGsに寄与したいと考えていますが、事業を進める上で社会・環境に対して様々な影響を与えていることを認識し、「社会・環境に対する負荷を減らすこと」「マイノリティの方々への配慮を行うこと」「活動が副次的に良い影響を与える機会を積極的に作り出すこと」も大切にしていきたいと考えています。
このような社会的責任を果たす上で、SDGsにつながる取り組みを下記のとおりピックアップしてお伝えします。

洗剤の環境負荷低減

森の生活の管理運営する施設（美桑が丘管理棟、地域間交流施設「森のなかヨックル」）において、館内に設置する洗剤類については合成洗剤を避け、清掃においても、せっけん洗剤、重曹、クエン酸を使用しています。

→6．安全な水とトイレを世界中に、12．つくる責任 つかう責任

省エネルギー・再生可能エネルギーへの転換の推進

美桑が丘管理棟での薪ストーブの使用、ヨックルでのレンタサイクルなど、省エネルギーを促すとともに、美桑が丘管理棟に小規模オフグリッドソーラーシステム（400W）を導入し、パソコンの充電を中心に活用を推進しています。また、ヨックルの熱源について、隣接する中学校・幼児センターの木質バイオマスボイラーを利用することで木質化を促せるよう、働きかけを行います。さらに、施設で使用する石油由来のエネルギー使用を削減するために、消費量をモニタリングし、年次報告書にて公表しています。

→7．エネルギーをみんなに そしてクリーンに

バイオトイレの設置

美桑が丘に参加型ワークショップでバイオトイレを設置し、排泄物の堆肥化と畑での利用を通じて循環型の暮らしの実践と学習の場を提供しています。

→6．安全な水とトイレを世界中に、12．つくる責任 つかう責任

紙資源への配慮

ペーパーレス、裏紙の使用を推進するとともに、コピー用紙、トイレットペーパーは可能な限り FSC® 認証のものや環境に配慮した製品を使用するように努めています。

→12．つくる責任 つかう責任、15．陸の豊かさも守ろう

職員の労働環境の改善

年に1度、労働環境の改善に向けて話し合う機会をつくっています。また、フレックスタイム制の導入、事務所の営業日を週4日（月～木）にするなど各スタッフの生活様式に合わせて柔軟に働ける環境づくりに取り組んでいます。

→8．働きがいも経済成長も

地産地消・食育の推進、ヨックルガーデンへの車椅子用木道の設置

パーマカルチャーの考え方を参考に無農薬で栽培しているヨックルガーデンを主なフィールドとして、ヨックル滞在者やヨックルガーデンサークルのメンバーが野菜を栽培・収穫できる機会をつくるとともに、地域の農家等と連携した野菜直売所の設置など地産地消を促すことで、食育の場づくり、地産地消の推進に取り組んでいます。また、ヨックルガーデンには、車椅子の方も楽しんでいただけるよう、木道を設置しています。

→2．飢餓をゼロに

会計報告

活動計算書 2019年4月1日～2020年3月31日

（単位：円）

Ⅰ 経常収益	
会費	116,000
寄付金	142,500
事業収益	22,579,386
受託事業収益	9,225,751
助成金収益	2,963,000
その他収益	9,245
経常収益　計	35,035,882
Ⅱ 経常費用	
事業費	
人件費	13,398,137
その他経費	15,361,798
事業費　計	28,759,935
管理費	
人件費	5,140,515
その他経費	506,356
管理費　計	5,646,871
経常費用　計	34,406,806
当期経常増減額	629,076
税引前当期正味財産増減額	629,076
法人税、住民税及び事業税	80,020
当期正味財産増減額	549,056
前期繰越正味財産額	20,651,970
次期繰越正味財産額	21,201,026

資産貸借表 2020年3月31日 現在

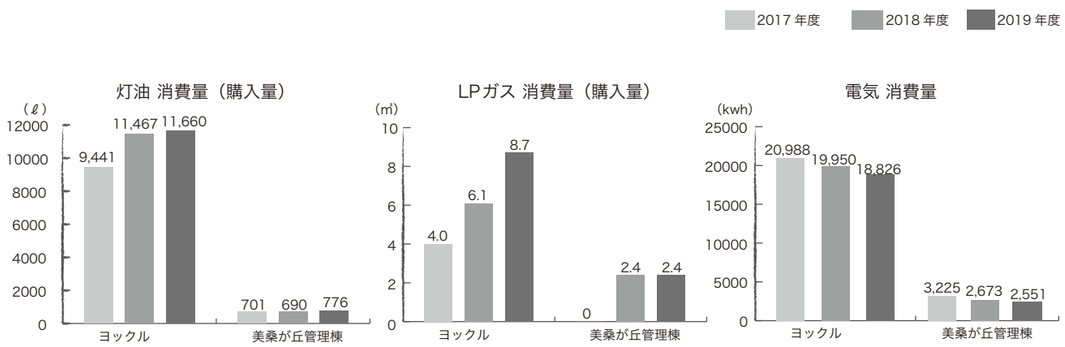
（単位：円）

Ⅰ 資産の部	
流動資産	
（現金・預金）	
現金・預金	17,154,188
現金・預金　計	17,154,188
（売上債権）	
売　掛　金	5,793,002
売上債権　計	5,793,002
（棚卸資産）	
棚卸　資産	1,780,686
棚卸資産　計	1,780,686
流動資産　合計	24,727,876
固定資産	
（有形固定資産）	
什器備品	213,408
一括償却資産	94,608
什器備品等減価償却累計額	-308,016
有形固定資産　計	0
（投資その他の資産）	
有価　証券	60,000
出　資　金	20,000
投資その他の資産　計	80,000
固定資産　合計	80,000
資産合計	24,807,876

Ⅱ 負債の部	
流動負債	
買　掛　金	600,233
未　払　金	2,204,449
預　り　金	48,968
未払法人税等	80,000
未払消費税	673,200
流動負債　計	3,606,850
負債　合計	3,606,850
Ⅲ 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	20,651,970
当期正味財産増減額	549,056
正味財産　計	21,201,026
正味財産　合計	21,201,026
負債･正味財産　合計	24,807,876

エネルギー消費量

指定管理者として施設「地域間交流施設　森のなかヨックル」「美桑が丘管理棟」の管理運営を行っています。
事業活動に伴うエネルギー消費削減に努めるため、消費量についてモニタリング・公開しています。



森の生活の 中期３ヵ年（2018-2020 年）目標

森を活かし、生き生きと暮らす人を増やすために「森のうずしお」をつくる。

1．森や木材と関わる機会をつくります。

web、イベント、体験プログラム、製品を通じて、「森と関わることに興味はあるけどきっかけがない」という人たちに、森や木材と関わる機会をつくります。

2．自然・地域の人々との関係性をつなぎます。

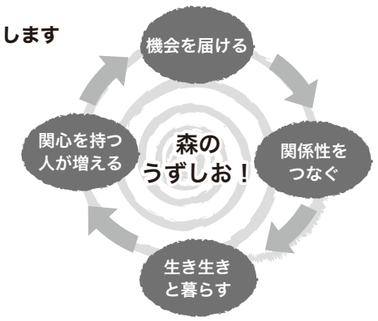
私たちのサービス･製品を通じて、下川の森林をはじめとする自然や、地域の人々との関係性をつなぎます。

3．自ら生き生きと暮らすことができるよう、促します。

築いた関係性をいかして、自分らしく森や地域と関わることで、自ら生き生きと暮らすことができるよう促します。

4．1～3 の循環（森のうずしお）を生み出します

そのような人々が増えることで、
森林や地域に関心を持つ人がさらに増え、
さらに１→2→3→1→2…
と続く循環を生み出します。



団体概要

名称	特定非営利活動法人　森の生活
代表理事	麻生 翼
理事	児玉 光、普久原 涼太、黒井 理恵、加勢 雅善、成田菜穂子
監事	渡邊 大介
設立	2005年11月
会員	25名（正会員10名・賛助会員15名） 法人賛助会員3社 ※2020年9月時点
住所	〒098-1204　北海道上川郡下川町南町477番地
電話	01655-4-2606
FAX	01655-6-7007

法人賛助会員団体（五十音順）

・株式会社サンテック
・日本ウッドコーポレーション株式会社
・有限会社　北幸加工

森の生活年表

1997年　移住者を中心とした団体「さーくる森人類」発足。森づくりや森林・林業体験事業などを実施。

2002年　下川産業クラスター研究会の「自然療法プロジェクト」が森林療法をはじめとする自然療法の研究を開始。
「さーくる森人類」を母体としてNPO法人森の生活設立。代表に奈須憲一郎が就任。

2005年　森林療法を事業の柱の1つに据え、森を活かした体験プログラムやツアーの提供を開始。

2006年　「下川町幼児センター　こどものもり」の児童を対象にした森の中での保育活動「森のあそび」を開始。

2008年　下川町森林組合から移管を受け、トドマツ精油製造販売事業を開始。

2009年　指定管理者として「地域間交流施設　森のなかヨックル」の管理運営を開始。
幼児・小・中・高校一貫の森林環境教育事業を開始。

2012年　精油製造販売事業担当者が新たに立ち上げた「株式会社フプの森」にトドマツ精油製造販売事業を移管。

2013年　指定管理者として「美桑が丘」の管理運営を開始。事務所を美桑が丘管理棟に移転。
代表理事に麻生翼が就任。

2015年　有効活用されていなかった広葉樹材を活用するために小規模多品目の木材流通事業を開始。

2017年　起業家誘致プログラム「シモカワベアーズ」を産業活性化支援機構と連携しスタート。

理事・スタッフ紹介

代表理事
麻生 翼

理事
児玉 光

理事
普久原 涼太

理事
黒井 理恵

理事
加勢 雅善

理事・事務局長
『森のなかヨックル』
管理運営
成田 菜穂子

森林体験
森林環境教育
美桑が丘管理運営
藤原 佑輔

森林体験
森林環境教育
美桑が丘管理運営
長尾 綾

広葉樹製造販売
『森のなかヨックル』
管理運営
菅家 久里子

総務
児玉 こずえ

『森のなかヨックル』
管理運営
白川 百合子

『森のなかヨックル』
管理運営
山田 直美

『森のなかヨックル』
管理運営
森づくり技術指導
中山 誠一

森の生活では活動をご支援してくださる方々を募集しています。
HPからお申し込みください。

【正会員】
年会費 5,000 円（個人のみ）
森の生活の総会議決権を持つ「活動の担い手」として、森の生活の運営や活動方針の検討に関わってくださる方々。

【ファンクラブ会員（賛助会員）】
年会費 3,000 円（個人）　10,000 円（法人）
下川や森の生活を応援してくださる「活動の応援団」の方々。

下記口座への寄付も受け付けております。お預かりしたご寄付は活動に大切に使わせていただきます。

【寄付・お振込先】
銀行振込
　北星信用金庫下川支店　普通口座：1018801
　特定非営利活動法人　森の生活　代表　麻生 翼
ゆうちょ銀行 振替口座
　02760-6-41851　特定非営利活動法人　森の生活
　（他行から振込）二七九店　　当座：0041851

森の生活
https://morinoseikatsu.org

特定非営利活動法人 森の生活　2019 年度年次報告書　2020 年 9 月発行

本報告書の内容に関するお問い合わせは、
右記までお願いいたします。

特定非営利活動法人　森の生活
〒098-1204　北海道上川郡下川町南町 477 番地
TEL：01655-4-2606　FAX：01655-6-7007
E-mail：info@morinoseikatsu.org